(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5384287号
(P5384287)
(45)発行日　平成26年1月8日(2014.1.8)　(24)登録日　平成25年10月11日(2013.10.11)

(51)Int.Cl.　　F I
B65D 5/52 (2006.01)　　B65D 5/52 H
B65D 75/02 (2006.01)　　B65D 75/02

請求項の数 2　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願2009-242450 (P2009-242450)
(22)出願日　平成21年10月21日 (2009.10.21)
(65)公開番号　特開2011-88641 (P2011-88641A)
(43)公開日　平成23年5月6日 (2011.5.6)
審査請求日　平成24年9月10日 (2012.9.10)

(73)特許権者　500140943
ライオンケミカル株式会社
和歌山県有田市辻堂１－１
(74)代理人　100102211
弁理士　森　治
(72)発明者　田中　源悟
和歌山県有田市辻堂１－１　ライオンケミカル株式会社内

審査官　高橋　裕一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】陳列用包装材

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
紙製のシート状材料を折り曲げて、突出部を備えた容器を収容する箱状部を備えるようにした陳列用包装材において、前記箱状部の側面を開口して形成するとともに、該開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料を折り曲げて箱状部の内方に向けて挿入するとともに、該挿入したシート状材料の先端部をさらに折り曲げて対面する箱状部の内面から離間するようにすることにより、開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料によって、箱状部に収容した容器の突出部を挟持するようにしたことを特徴とする陳列用包装材。
【請求項２】
箱状部の前面部を構成するシート状材料に、箱状部に収容した容器の本体部が嵌り込む開口部を形成したことを特徴とする請求項１記載の陳列用包装材。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、陳列用包装材に関し、特に、突出部を備えた容器を収容する箱状部を備えるようにした陳列用包装材に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、洗浄剤、芳香・消臭剤、殺虫剤等においては、使用済みの本体部を再利用できる

ように薬剤等を収容した交換用容器が販売されている。

【０００３】

ところで、これらの交換用容器は、収容物を取り出すための口部としての突出部を備えており、また、装着される本体部に対応した形状をしていることもあって、それ自体では、設置安定性に欠けるものが多いことから、販売に際しては、ブリスターパック等の合成樹脂材料を一部に使用した陳列用包装材が多用されている。

【０００４】

しかしながら、ブリスターパック等の合成樹脂材料を一部に使用した陳列用包装材は、コスト高になるとともに、廃棄時に分別処理を行う必要があるという問題があった。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

本発明は、上記従来の陳列用包装材の有する問題点に鑑み、紙製のシート状材料を用いることによって、コストを低廉できるとともに、廃棄時の分別処理の手間をなくすようにしながら、設置安定性に欠けるものが多い突出部を備えた容器を安定して収容することができる陳列用包装材を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記目的を達成するため、本発明の陳列用包装材は、紙製のシート状材料を折り曲げて、突出部を備えた容器を収容する箱状部を備えるようにした陳列用包装材において、前記箱状部の側面を開口して形成するとともに、該開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料を折り曲げて箱状部の内方に向けて挿入するとともに、該挿入したシート状材料の先端部をさらに折り曲げて対面する箱状部の内面から離間するようにすることにより、開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料によって、箱状部に収容した容器の突出部を挟持するようにしたことを特徴とする。

【０００７】

この場合において、箱状部の前面部を構成するシート状材料に、箱状部に収容した容器の本体部が嵌り込む開口部を形成することができる。

【発明の効果】

【０００８】

本発明の陳列用包装材によれば、箱状部の側面を開口して形成するとともに、該開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料を折り曲げて箱状部の内方に向けて挿入するとともに、該挿入したシート状材料の先端部をさらに折り曲げて対面する箱状部の内面から離間するようにすることにより、開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料によって、箱状部に収容した容器の突出部を挟持するようにすることにより、紙製のシート状材料を用いることによって、コストを低廉できるとともに、廃棄時の分別処理の手間をなくすようにしながら、設置安定性に欠けるものが多い突出部を備えた容器を安定して収容することができる。

そして、箱状部に収容した容器を取り出す場合には、容器を開口した側面に向けて押圧することによって、箱状部の内方に向けて挿入した開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料と共に押し出し、簡単に取り出すことができる。

【０００９】

また、箱状部の前面部を構成するシート状材料に、箱状部に収容した容器の本体部が嵌り込む開口部を形成することにより、箱状部に収容した容器の設置安定性が向上するとともに、箱状部に収容した状態で容器の本体部を視認することができ、購入者の商品の誤認を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本発明の陳列用包装材の一実施例を示し、（ａ）は正面図、（ｂ）は側面図である。

【図２】同陳列用包装材の展開図である。
【図３】同陳列用包装材に突出部を備えた容器を収容した状態を示し、（ａ）は図１（ａ）のＡ－Ａ断面図、（ｂ）は図１（ａ）のＢ－Ｂ断面図、（ｃ）は図１（ｂ）のＣ－Ｃ断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
以下、本発明の陳列用包装材の実施の形態を、図面に基づいて説明する。
【００１２】
図１～図３に、本発明の陳列用包装材の一実施例を示す。
この陳列用包装材１は、紙製のシート状材料を折り曲げて、突出部２２を備えた容器２を収容する箱状部１０を備えるようにした陳列用包装材１において、箱状部１０の側面を開口して形成するとともに、この開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７を折り曲げて箱状部１０の内方に向けて挿入するとともに、挿入したシート状材料１６、１７の先端部１６ａ、１７ａをさらに折り曲げて対面する箱状部１０の内面から離間するようにすることにより、開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７によって、箱状部１０に収容した容器２の突出部２２を挟持するようにしている。
【００１３】
ところで、陳列用包装材１を形成するために用いる紙製のシート状材料には、箱状部１０に薬剤等を収容した容器２を収容した状態で、吊り下げて陳列することができる程度の強度を有する厚紙又は段ボールを使用することができる。
【００１４】
紙製のシート状材料は、図２に示すように、所定形状に打ち抜くとともに、必要に応じて、折り目となるミシン目や押圧線を付けるようにする。
なお、紙製のシート状材料の形状等は、収容する突出部２２を備えた容器２の形状や陳列形態に合わせて決定することができる。
【００１５】
そして、本実施例において、紙製のシート状材料は、吊り下げ部１１、天面部１２、前面部１３、底面部１４、背面部１５及び開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７となる底面部１４の両側から側方に延設した延設部からなり、吊り下げ部１１に背面部１５を固着することにより、天面部１２、前面部１３、底面部１４及び背面部１５によって、側面が開口した箱状部１０を形成するようにしている。
【００１６】
そして、開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７となる底面部１４の両側から側方に延設した延設部を、底面部１４との境界から折り曲げて箱状部１０の内方に向けて挿入するとともに、挿入したシート状材料１６、１７の先端部１６ａ、１７ａをさらに折り曲げて（本実施例においては、折り曲げ状態が維持されるように、２回折り曲げて）、対面する箱状部１０の底面部１４の内面から離間するようにしている。
また、挿入したシート状材料１６、１７の先端部１６ａ、１７ａは、その一部を切り欠くことによって、箱状部１０に収容した容器２の突出部２２を挟持する挟持部１６ｂ、１７ｂを形成するようにしている。
【００１７】
また、本実施例においては、箱状部１０の前面部１３を構成するシート状材料に、箱状部１０に収容した容器２の本体部２１が嵌り込む開口部１３ａを形成するようにしている。
これにより、箱状部１０に収容した容器２の設置安定性が向上するとともに、箱状部１０に収容した状態で容器２の本体部２１を視認することができ、購入者の商品の誤認を防止することができる。
【００１８】
また、本実施例においては、箱状部１０の吊り下げ部１１を構成するシート状材料に、

吊り下げ用の孔部１１ａを形成するようにしている。

【００１９】

次に、この陳列用包装材１の使用方法について説明する。

紙製のシート状材料の吊り下げ部１１、天面部１２、前面部１３、底面部１４及び背面部１５を折り曲げるとともに、吊り下げ部１１に背面部１５を固着することにより、側面が開口した箱状部１０を形成するようにする。

そして、箱状部１０の開口した側面から、突出部２２を備えた容器２を、突出部２２が下側となるように挿入し、この開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７となる底面部１４の両側から側方に延設した延設部を折り曲げて箱状部１０の内方に向けて挿入する。

このとき、挿入したシート状材料１６、１７の先端部１６ａ、１７ａをさらに折り曲げて対面する箱状部１０の内面から離間するようにすることにより、開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７の先端部１６ａ、１７ａの一部を切り欠いて形成した挟持部１６ｂ、１７ｂが、箱状部１０に収容した容器２の突出部２２の位置に合致するようにし、この挟持部１６ｂ、１７ｂによって、容器２の突出部２２を挟持するようにする。

【００２０】

さらに、本実施例においては、箱状部１０の前面部１３を構成するシート状材料に形成した開口部１３ａに、箱状部１０に収容した容器２の本体部２１が嵌り込み、容器２が保持される。

【００２１】

この陳列用包装材１は、これにより、紙製のシート状材料を用いることによって、コストを低廉できるとともに、廃棄時の分別処理の手間をなくすようにしながら、設置安定性に欠けるものが多い突出部２２を備えた容器２を安定して収容することができる。

そして、箱状部１０に収容した容器２を取り出す場合には、容器２を開口した側面に向けて押圧することによって、箱状部１０の内方に向けて挿入した開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料１６、１７と共に押し出し、簡単に取り出すことができる。

【００２２】

以上、本発明の陳列用包装材について、その実施例に基づいて説明したが、本発明は上記実施例に記載した構成に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲において適宜その構成を変更することができるものである。

【産業上の利用可能性】

【００２３】

本発明の陳列用包装材は、紙製のシート状材料を用いることによって、コストを低廉できるとともに、廃棄時の分別処理の手間をなくすようにしながら、設置安定性に欠けるものが多い突出部を備えた容器を安定して収容することができることから、洗浄剤、芳香・消臭剤、殺虫剤等においては、使用済みの本体部を再利用できるように薬剤等を収容した交換用容器の陳列用包装材の用途に好適に用いることができるほか、その他の突出部を備えた容器の陳列用包装材の用途にも用いることができる。

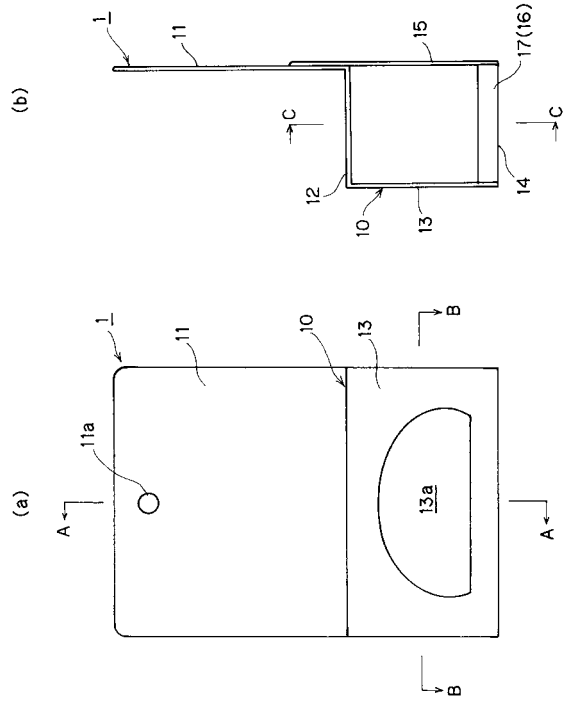
【符号の説明】

【００２４】

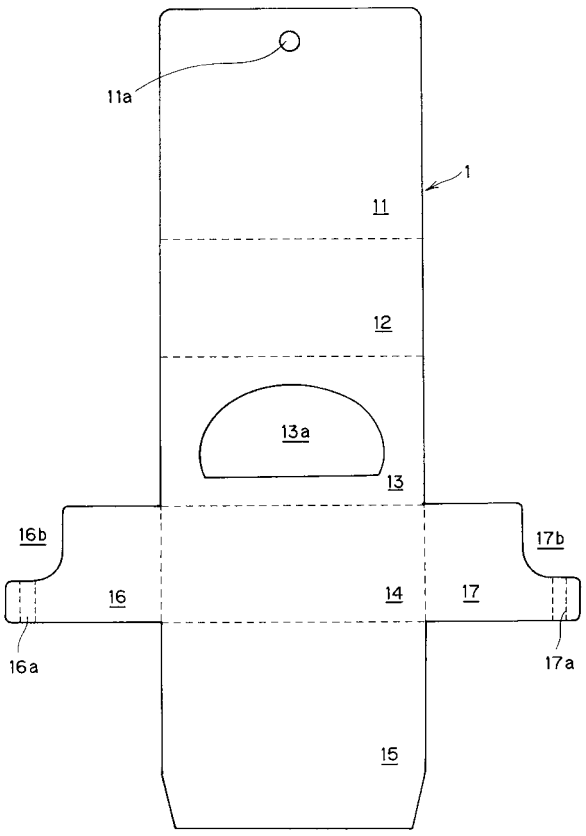
１　陳列用包装材
１０　箱状部
１１　吊り下げ部
１２　天面部
１３　前面部
１４　底面部
１５　背面部
１６　開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料
１６ａ　先端部

１６ｂ　挟持部
１７　開口した側面の端縁の一辺から延設したシート状材料
１７ａ　先端部
１７ｂ　挟持部
２　　容器
２１　本体部
２２　突出部

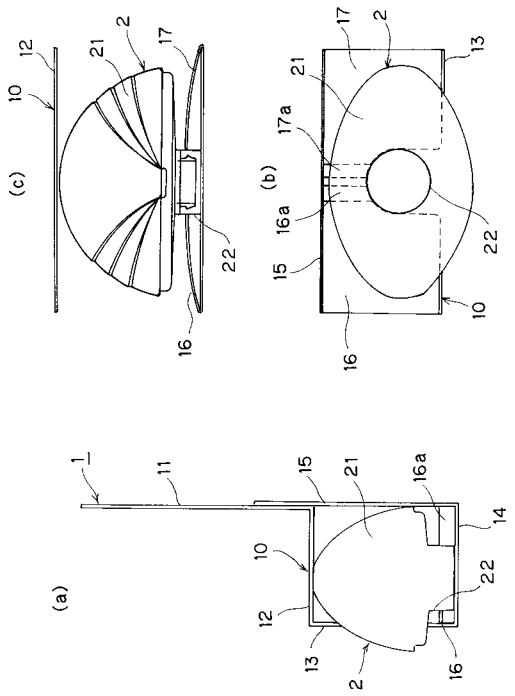
【図１】



【図２】



【図３】


(c)
12
10
21
2
17
22
16
(b)
17
2
13
21
17a
16a
15
22
10
16
(a)
1
11
15
21
16a
14
10
22
12
13
2
16

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５９－１３６４２６（ＪＰ，Ｕ）
特開２００６－２０６０８８（ＪＰ，Ａ）
特開２００２－３３２０６４（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－０６７４４７（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３０７５０６６（ＪＰ，Ｕ）
特開２００１－２０６３５２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ ５／００－ ５／７６
Ｂ６５Ｄ７５／０２